林業普及現地情報
2021-25号（通算421号）
令和４年１月12日
盛岡広域振興局林務部
記述者　木越　聡

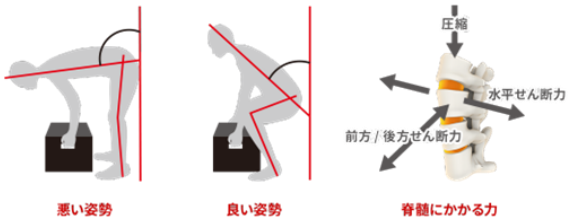
林業作業におけるアシストスーツのモニタリングについて

１　はじめに

戦後造成した人工林が利用期を迎える中、主伐面積の増加とともに再造林面積も増加しています。地拵え・植付等の造林作業現場は、機械化を進めることが非常に難しく、そのほとんどを人力に頼っています。

その一方、林業従事者数の減少・高齢化は進んでおり、限られた労働力で効率的な造林作業を実施するとともに、労働負荷の軽減が必要であります。このため、造林作業等の労働強度の軽減対策の一環として「アシストスーツ」のモニタリングを実施しました。

アシストスーツとは、作業時に伴う背中や腰にかかる大きな負担を軽減する製品です。（下イメージ図参照）



２　モニタリング方法

アシストスーツを３林業事業体に各１着づつ貸与し、９月から12月頃までモニタリングを行い、アンケートに協力いただきました。

下の写真は、今回貸与したアシストスーツの装着状況です。

３　アンケート結果

アンケートには、以下の回答がありました。

①「アシストスーツ着用前と比較して疲労度はどうでしたか？」という質問に対して、「疲労度がやや増加した」と「増加した」との意見が３名中２名を占めました。

②「身体のどの部位の疲労が増加しましたか？」に対して、「ベルトが腹部を圧迫した」等の意見がありました。

③「身体のどの部位に違和感がありましたか？」には、「太もも」、「背中」、「腹部」との回答がありました。

その他、改善を要する点として、「正しく装着しないと効果が発揮できない。より簡単に正しく装着できるようにして欲しい。」「サイズを複数用意して欲しい。」などの意見が寄せられました。

これらのことから、不評だった原因として、今回用意したアシストスーツは予算の関係で、使用する方にあったサイズが用意できなかったことが考えられました。

４　今後の取組

アシストスーツは、様々な作業での労働強度を軽減させる有効なアイテムですが、サイズが合わなかったり、装着が正しくないと逆効果になることが分かりました。

今後は、事前に装着方法を説明したり、異なるサイズやタイプのアシストスーツを紹介するなど、林業事業体への普及を図っていく予定です。